

〔岡崎 晋議員 登壇〕

○3番 岡崎 晋君 済みません、休憩をお願いします。

○議長 知念富信君 暫時休憩します。

休憩（午後1時00分）

再開（午後1時00分）

○議長 知念富信君 再開します。3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 よろしくお願いいたします。質問に入る前に、最近のことについて触れてまいりたいと思います。4月、5月、6月と連続して、毎日のように、全国各地で高齢ドライバーによる交通事故で、大勢の他人を巻き込む悲惨な事態が多発しています。枚挙にいとまがありません。これは、私が推察するに、似たような事故は、これまで毎日のように全国で起きていたのでしょうか。特に悲惨な事故が4月以来相次いだので、現在、こうして毎日のように報道されているのだと私は思います。与那原署の交通課とか生活安全課では、所管内の老人会とかミニデイなどの場で、免許返納についての制度や返納した場合の特典などの説明をしているそうです。説明です。奨励までは踏み込んでいません。町内の大型ショッピングセンターでは、沖縄県警本部からの呼びかけとして、ブレーキとアクセルを踏み間違えないようにとアナウンスを流しています。皆さんの中できのう、きょうもありましたが、アメリカでは交通事故による死亡の原因は8割が車同士の衝突事故によるものです。しかし日本では、人が歩行中に、あるいは自転車に乗ったりしているときに、車にはねられて死亡する方がずっと多い。これは、道路のつくり方、歩道のつくり方、インフラの問題ですね。日本では80歳以上のドライバーの26.4%がまだ運転を続けているという現状があります。ブレーキとアクセルの踏み違いによる緊急防止装置が売り出され、東京都はこれに9割の補助を出すことを決めております。きのうでは、政府の緊急会議で、危険が目の前に迫ったら車が自動的にとまれるような安全運転サポート車、あるいは時間や運転できるエリアを近所に限るといような限定免許制度などについて検討して、ことし中に結論を得たいとしています。あるいは海外では、車を運転するのに医師の診断が必要とか、いろいろな安全策が講じられておりますけれども、でも結局こういうことは、高齢者が運転を続ける、免許を持ち続けるということにもなるんです。だから、本当にそれがいいのかという懸念の声もあります。今年度の本町の予算編成に当たっては、取り組み強化の一つに交通安全もうたわれております。それでは質問に入りたいと思います。

1. 高齢者の運転免許自主返納促進とコミュニティーバス早期運行について。(1) 高齢運転者による悲惨な事故が頻発している現状をどうお考えですか。(2) 高齢者の運転免許自主返納を促進してもらいたいが、どうお考えですか。(3) コミュニティーバスを早期に導入していただきたいが、どうお考えですか。(4) コミュニティーバス導入について、これまでどのように検討してこられたか。そしてどう結論づけましたか。(5) 運転免許自主返納とコミュニティーバスのニーズについて、自治会や民生委員・児童委員と協力して、住

民アンケートを実施していただきたいが、どうお考えですか。(6)ちむぐる館の健康増進室利用促進のためにも、福祉バスと連携できるコミュニティーバスを導入していただきたいが、どうお考えですか。お願いいたします。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項1点目の高齢者運転免許自主返納促進とコミュニティーバス早期運用について。(1)についてお答えします。高齢運転者の事故が多発している現状から、全国的にも推進されている運転免許自主返納制度の促進を行うなどの対策により、未然に事故を防止することが必要だと考えます。(2)についてお答えします。警察を中心として、運転免許自主返納が促進されています。運転免許自主返納者には証明書が発行され、対象店舗や公共交通機関の利用時に、割引制度が適用されております。町においても、制度の周知を引き続き行ってまいります。次の(3)から(6)までについては、関連しますので一括してお答えします。コミュニティーバス導入については、現在の公共交通運行状況、主要施設の立地状況、地域の実情や需要及び財政状況等を踏まえて検討した結果、早期の事業実施は厳しいとの判断に至っております。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 (1)の免許自主返納の促進を行う対策により、未然に事故を防止することが必要とお考えだと、これはもう皆さん、認識は一致していると思います。ただ、(2)以降のお答えでは、警察を中心として運転免許自主返納が促進されていますということですが、今、警察はそこまで踏み込みできていません。説明だけにとどまっているはずですが、「免許返納してください」と警察は言っていません。それで私たちのほうで、一步踏み込んだ対応が必要ではないかという意味で今回の質問をしております。(2)のお答えで、町においても制度の周知を引き続き行っていきますというお答えですが、どのようにやっこうとお考えですか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 免許の自主返納については、さまざまな優遇措置が講じられています。そういったことを、広報またはホームページ等で幅広く周知していきたいと考えております。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 私が住んでいる新川でも、80歳を超すご婦人が軽乗用車を運転していて、壁をガガガとこするのを、私自身目撃しています。私たちの身近でもこういう悲惨な事故がいつ起こるか。いつでも起こり得るといふ、非常に危機感を持っております。与那原署に聞いてみました。ことし3月時点で、県全体では94万7,000人が免許を持っていると。このうち、65歳以上は17万5,000人で18.7%。これは当然毎年ふえていきます。高齢の方々の免許保持は。過去1年間に免許を返納した方は70歳以上で2,900人、1.7%未満。このうち75歳以上で免許を返した方は2,429人で1.3%。大分少ないです。(3)のお答えの中に、コミュニティーバスについて、現在の公共交通運行の状況なども勘案して、コミュニ

ティーバスの導入は難しいと。済みません、私の質問は全部関連していますから（１）から（６）まで行き来します。しかし、皆さんよくご存じのように、バスは県下の４社で、全路線で２１２便が減便されます。町内を通る東陽バス城間線は、週に３４便も減便、沖縄バスの４０番、１０９番も減便されます。皆さんの足がなくなるということではなくて、大変不便になるわけです。それで運転免許の返納を呼びかけるということと、コミュニティーバスの運行を是非やっていただきたいということを、今抱き合わせで伺って提案しているわけですが、神戸市は、運転免許を返納して、マイナンバーカードを申し込んだら、クルージングのチケットが当たるとか、幾つかの景品を出すようにして免許の返納を奨励しています。町民の生命、財産などを守るというのは行政の責任だと思うのですが、（３）のお答えでは、コミュニティーバスの導入は早期には難しいという判断に至ったということですが、これは以前にも、多くの議員の皆さんがコミュニティーバス導入について質問、提案をしてきています。１２月の質問でも奈津江議員が質問、提案をされています。何度も質問、提案をされてきたと思いますけれども、これについて皆さんは、どのように検討しましたか。総務部だけで判断されたのですか。どのように検討されてこられましたか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 検討については、我々主幹である総務部で検討を行いました。

○議長 知念富信君 ３番 岡崎 晋議員。

○３番 岡崎 晋君 ではもしかしたら、総務部長のご判断だけで難しいという判断になっているのですか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 検討は、我々がいろいろと多面的な角度から検討しましたが、厳しいという判断については、上司にも報告はしております。

○議長 知念富信君 ３番 岡崎 晋議員。

○３番 岡崎 晋君 どのようにすればコミュニティーバスを運行できるかについて、部内で調べたり、検討したりしたことはありますか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 コミュニティーバスの導入については、やはりあれば、町民が非常に助かることは間違いありません。それは我々も理解しておりますが、ただ現在、南風原町における公共施設の配置、公共交通の運行状況、社協におけるいろいろなサポート事業、本町の厳しい財政状況を踏まえて、総合的に判断した結果となっております。

○議長 知念富信君 ３番 岡崎 晋議員。

○３番 岡崎 晋君 私たち議員団１１名は、去年１１月に山口県周南市の大道理という地区のコミュニティーバスの運行状況について勉強してまいりました。その後ここで、１２月定例会で質問提案が奈津江議員からなされたんですね。私はどんな方法があるのだろうと調べてみました。あちこち電話をして、結局遠回りをしたのですが、自家用有償旅客運送、これが去年１１月に奈津江議員が提案されたマイクロバスでなくても、普通の軽乗用車でも

1日間の講習を受ければ、それを有償で運行できるというのが、今話をした自家用有償旅客運送です。これは、どのようにして受講できるかという点、沖縄県では唯一、沖縄県ハイヤー・タクシー協会宮古支部の支部長がおられて、この方お一人だけが県内で講習する資格を持っておられます。1日5時間、9時からお昼を挟んで15時まで、5時間の講習を受ければ過去2年以内に交通違反などがなければ、一種免許の人でも有償の車を運行できると。支部長の方に伺ったら、私たちが向こうに行き行って受講するのは大変だから、ここに来て講習会を開催することもできると。1人5,000円。そういう方法もあります。座学だけで実技はありません。県内では与那国町の方なのかはわかりませんが、受講された。しかし与那国町に聞いてみると、小さい車でのコミュニティーバスは運行していないと。是非、県内で初めての先駆けとなっていただきたいと思うのですが、社協が自主財源事業で福祉バスを運行していますね。各地域とちむぐくる館をつないで、健康増進室の利用を高めるために運行しています。でもこれは月水金の各地域1回だけで、去年1年間の利用者は何名だったかという点、1,470名。1日に利用する方は10.9名、11名にも満たないのです。この健康増進室を利用するという点、ヤードマイを減らして、ふれ合いをふやして、町民が健康を増進して、国保の赤字の減少につながられると思うんですね。けどどうしてこんなに利用が少ないのだろうと、とても残念に思っています。便数が少ないからなのか何なのか。コミュニティーバスとこういう福祉バスとを連携した運行ができないものか。私が今紹介した受講の方法とか、あるいはちむぐくる館の健康増進室利用促進のために、是非コミュニティーバスの導入の検討をお願いしたいと思うのですが、いかがですか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 岡崎議員の提案の、コミュニティーバスの、町民の交通手段の拡充、総合保健福祉防災センターの健康増進室の活用の拡充については、我々も同じ意見であります。我々もそれを拡大していきたいと考えておりますが、しかし、コミュニティーバスの導入に関しては、厳しい財政状況であり、継続事業においても継続が厳しい中、新規の事業の導入については厳しいものと考えております。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 コミュニティーバスについては41%の補助をもらっている自治体の例もありますし、優秀な職員がそろっている本町においては、多分私たちが驚くような手法をもって、補助金を引き出してこられるのではないかと思います。バスの導入についても、試行で3カ月とか6カ月とか1年以内とか、そういう方法もあると思うのですが、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 お答えいたします。コミュニティーバスの状況、今後の新たな財源の確保については、今後も我々は総務部として調査研究は行って、先進も含めていろいろな情報を得ていきたいと考えておりますが、ただ、早期のコミュニティーバスの導入については財源の確保が厳しいことから、厳しいものと考えております。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 免許返納についても一度伺います。区長会というのがありますね。区長会は月に2回開催で、たしか3階で開催されていると思いますけれども、アンケートを実施していただきたいというのは、アンケートをするというお答えはいただいていません。でも、アンケートを実施していただきたいのです。免許返納を促進するために。アンケートをするとすれば、高齢の運転者本人に聞けば、それはなかなか「うん」とは言わないでしょう。ただご家族の方に答えていただく。その際には、コミュニティーバスがあれば利用するかとか。区長会は、月に2回開催ですけれども、配布物とかポスター張りの依頼とか、放送の依頼、そういう上意下達だけではなくて、区長会と行政は同じ立場でもっと区長会に近づいて行って、自治会や民生委員・児童委員、あるいはコミュニティーソーシャルワーカー、保健師とか、そういう方々に協力願ってアンケートを実施していただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 現段階で、コミュニティーバスの導入については、厳しい財政状況の中、厳しいことから導入できない観点に立ってアンケートをすることは厳しいものと考えております。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 それでは、運転免許の自主返納についてのアンケートはいかがですか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 運転免許の自主返納については、町民個人それぞれが自主的にやっていくことと考えておりますので、本町としては自主返納の優遇措置、事故の状況等、情報提供によって促していきたいと考えております。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 先ほども触れたように、本町の取り組み強化の中に交通安全をうたっています。今まさに、こういう事故が多発しています。アンケート調査について、やらないということではなくて、例えば次の区長会で、こういうアンケートを実施するとしたら、協力してもらえるだろうかということを聞いていただくことはできますか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 高齢者の運転免許返納については、先ほども申したとおり、免許保持者自身がそれぞれで判断するものと考えておりますので、現在の事故の状況、優遇措置等の情報を広く提供することで、返納につなげていきたいと考えていますので、区長会の中では、そういった情報の提供を行っていきたいと考えております。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 なかなか合点がいきません。交通安全をうたっているんですよ。また別の場所で相談していきたいと思います。済みません、せっかくの機会なので、区長会につ

いてですけれども、月2回、庁舎で開催していますが、先ほどお話ししたように、一方通行の関係ではなくて、たまには皆さんが駐車場に余り困らないどこかの公民館に向いて、そこで区長会を開催するというのも考えてほしいと思うのですが、町の財政がこれだけ厳しい中で、緊縮予算の中で、区長の皆さんにも、町はもっと区長会を利用という言葉だったか思い出させませんけれども、もっと活用して、自治会の活動をもっと活発化させて、まちづくりと一緒にやっていってもらいたいという声があるのです。新川ではないけれども、そのように前向きな考え方を持っておられる区長が数名いらっしゃいます。これは別の機会に触れていきたいと思いますが、総務課長に答弁のデビュを願おうと思ったら、みゆき議員に先を越されてしまったのですが、今話しをしている区長会の開催をずっとここではなくて、たまには出かけて行って開催してほしいという希望、お願いをしたいのですが、総務課長、部長と相談された上でそういうことも実施していただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 岡崎議員、これは通告書とかけ離れているので回答は要らない状況です。

○3番 岡崎 晋君 関連しているのですが。

○議長 知念富信君 総務部長、何か回答はございますか。総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 高齢者の免許証の返納の情報等を、区長会の中で情報提供をしていきたいと思います。また、区長会の人数は大勢であることから、やはり庁議室、役場の駐車場はスペースもありますので、庁議室で開催して、高齢者の免許証の自主返納につなげていきたいと考えております。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 別の機会にまた取り上げてまいりたいと思います。

それでは2点目の質問にまいります。これは県道241号線、南風原宜野湾線のことを指しております。2. 中央育成園からの下りカーブのガードレールと道路灯早期設置について。

(1) 中央育成園から兼城十字路への下りカーブのガードレールが未設置で非常に危険だが、どうお考えですか。(2) ガードレール設置まで、運転者に目立つような注意喚起を大きく掲示すべきだが、どうお考えですか。(3) 公文書館前から兼城十字路までの道路と歩道が暗くて危険である。道路灯設置を急ぐべきだが、どうお考えですか。お願いします。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項2点目の中央育成園から下りカーブのガードレールと道路灯早期設置について。(1)についてお答えします。県南部土木事務所へ確認したところ、今年度にガードレールを整備する予定との回答がありました。(2)についてお答えします。南部土木事務所から、今年度にガードレール設置を予定していることから、注意喚起看板等は予定していないとの回答でありました。今後、看板等の設置を要望してまいります。(3)についてお答えします。南部土木事務所から道路照明を今年度に整備予定との回答がありました。以上です。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 ガードレールがないことについては、前回は毅議員から質問がありまして、早速本町から申し入れがあったようで、南部土木事務所に聞いたら設置予定というお答えだったと。早速のアクション、ありがとうございます。そこは、縁石が20センチかないところにガードレールがないので、あそこの道路は、17年かかって3月末によく開通したのですが、道路が上等になって車が連なっている間は問題ないといいますが、そうでもないのですが、車が1台、2台走る場合には、バイクも車も相当なスピードで走っています。毅議員の質問があるまで、私はあそこを意識していなかったのですが、あの後、ずっと自分でも意識するようになっていて、本当に危ないところだなと思って改めて取り上げています。設置予定という南部土木事務所からの回答ですけれども、ただ向こうのカーブのところの歩道に二、三センチのひび割れが五、六メートルあります。そのひび割れを修繕しないとガードレールが設置できないという回答でした。ひび割れの修繕も簡単なものではなさそうなので、それがいつできるのか気になっています。だからその間、注意を呼びかけるもっと目立つような案内板が必要ではないかということをご提案しているわけです。20センチの縁石は、ハンドル操作とかスリップで大型車両だけではなくても、軽自動車でもバイクでも飛び越えてしまいます。町民、住民の安全を守るのは私たちの義務だと思うので、もっと早く呼びかけていただきたいと思うのですが、いかがですか。

○議長 知念富信君 まちづくり振興課長。

○まちづくり振興課長 金城政光君 看板設置については、仮設の対応とかその辺も検討していただきたいということで要請していきたくと思います。ガードレールの設置についても、今年度中ということではございましたけれども、早期に設置していただけるよう要請をしていきたくと思います。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 よろしくお願ひします。道路照明について、今年度に整備予定だと回答があったということですが、どの区間のことを言っているのでしょうか。もしかしたら交差点だけのことを言っているのではないのでしょうか。

○議長 知念富信君 まちづくり振興課長。

○まちづくり振興課長 金城政光君 以前の質問のときにもございましたけれども、連続照明はできないということで県のほうから回答はされております。今回の設置予定は、町道11号線との交差の部分、兼城交差点から公文書館向け200メートルぐらいですか、その区間の交差点でございます。あと、中央育成園の、かつてエルムという喫茶店があったところの交差点にも設置いたします。また中央育成園の入り口のほうの新しくできる交差点です。新道と旧道が交差されるところになります。そこにも設置すると。あとは、新川の交差点、公文書館の北側、バスターミナルとの間にある交差点、新川への入り口になる交差点に設置予定でございます。前回、回答したときよりは設置箇所がふえてはいます。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 それはありがとうございます。また後で詳しく場所を教えてください。

3点目にまいります。特別な支援が必要な子供たちについて。(1) 新年度を迎え、特別な支援を必要としている幼児児童生徒支援について、現状及び現場での課題はどのようなことがあるか。(2) 特別支援学級に編入するためには、今後も診断書提出はどうしても必要か。(3) 診断書が必要なのは島尻地区で何校のうち何校あるか。県内、全国での傾向はどうか。お答えをお願いします。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 質問事項の3点目、特別支援が必要な子供たちについての(1)でございます。特別な支援を必要とする幼児児童生徒の特性、具体的支援の方法について、関係機関との情報共有や支援方法の共通理解を図りながら支援を行っております。しかしながら、入学前に支援を必要とする幼児児童生徒の情報がない場合、または直前に支援が必要だとわかった場合など、急に支援体制を整えることが必要となり、その点が課題となっております。(2)については、町立小中学校の特別支援学級へ入学するに当たり、審査する子供の状況が判断できる資料があれば、必ずしも診断書の提出の必要はございません。(3)でございます。近隣の16市町村で確認いたしました。診断書を必要としているのは5町村であり、ほかの11市町村では必ずしも必要としてはいないとのことでございます。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 ありがとうございます。去年までは、たしか診断書が必要だったという私の認識で今回の質問をしたのですが、これからは、診断書は特に必要とするわけではないと理解してよろしいですか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 前回、質問されたときも同様の趣旨の質問がありましたが、そのときも特に子供の状況がわかるような資料がある場合は、診断書の必要はないという回答でございました。診断書は、基本的に資料がない場合は必要ですという回答でしたので、前回と同じような回答となっております。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 私の理解が違っていました。診断書をもらうためには、例えば療育手帳をもらう場合もそうですが、子供が相手なので1時間もしくはそれ以上かかるんです。ついてきた保護者が、もしも発達障害のある方だったらもっと時間がかかると。少なくとも3回以上は診断しないと診断書を書けないという状況があるようで、那覇市のあるドクターは、どこの自治体はまだ診断書を求めているのですかということ聞くドクターもいらっしゃるそうです。隣の町では診断書を求めているところもあるし、またある隣の町では求めていないところもあります。病弱な子供についても診断書を求めていないという自治体もあってびっくりしたのですが、お答えの中にあるように、手続が間に合わなくて支援学級に入れなかった場合、4月から9月までには、来年に向けての支援学級編入とかいろいろな



手続が進んでいると思うのですが、そのとおりですか。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えします。次年度の支援学級へ入級する児童生徒のための審議というのは、通常6月ごろから始まって、11月ごろまで開催しております。通常はその段階で、教育支援委員会というものを開きまして、そちらのほうで次年度のクラス決めを行っております。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 要は、そういう手続に間に合わなかった場合に、保護者の方がどうしていいかわからなかったり迷っていたり、手続に間に合わなかった場合にどのようにするのかということもあって伺ったら、それは課題だというお答えがあります。急に新体制を整える場合に、どうすればいいのか課題があると。そういう課題はどういう課題ですか。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えします。急というよりは、教育支援委員会に間に合わなくて、次年度入級できなかつたり、先ほど教育長の答弁にもありましてとおり、新年度を迎えて、支援が必要だとわかった場合のお子様に対しては、当然学校でも支援体制を協議して、児童生徒の個別の計画も立てていくのですが、教育委員会としても特別支援員の配置という形で対応したりしております。課題としましては、それが急にこちらに来ると、急に体制をとらないといけないということが課題となっていますということです。対応を行っていないということではなくて、急な対応をとらないといけなくなるということがあるということが課題ということです。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 特別支援の子供たちのために、特別支援員を配置されていますけれども、現状の充足率はどうですか。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん 平成31年度、幼稚園に16名、小学校に21名、中学校に5名の配置を行っております。

[岡崎 晋議員より「休憩願います」の声あり]

○議長 知念富信君 暫時休憩します。

休憩（午後1時44分）

再開（午後1時45分）

○議長 知念富信君 再開します。学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん 今年度、幼稚園に配置を予定している人数は19名で、配置できているのが16名。小学校が26名を予定してありまして、配置できているのが21名。中学校に関しましては5名を予定してありまして、5名の配置となっております。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 そうしますと、あと5名がまだ充足できていないということですね。

この事業のために計上されている予算はお幾らですか。

○議長 知念富信君 暫時休憩します。

休憩（午後1時46分）

再開（午後1時46分）

○議長 知念富信君 再開します。学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えします。今年度、特別支援員・教育支援員配置事業の予算としまして6,879万円となります。

○議長 知念富信君 3番 岡崎 晋議員。

○3番 岡崎 晋君 私は、福祉と教育はずっと連携していかなければいけないと訴えて、民生部長の答弁はしっかりやっていきたいと。私はそのとき、教育長の見解を求めなかったので、教育長のお答えはなかったのですが、その後ここで、私に、大事なことなのでしっかりやっていきたいというお言葉をいただきました。この予算は去年とほぼ同じです。こういう緊縮予算の中でこれだけの、6,800万円余りの予算を確保していただいているということは、大変ありがたいと思っています。心強いです。早目に、足りていない人たちを充足して、現場の皆さん、困っている人たちを是非支援して行ってほしいと思います。よろしくお願ひします。終わります。